

2020/03/01

「本当に恐ろしい病気は何？」

■罪と戦いなさい

今、人々は病気に対して非常に敏感になっていて、病気に感染しないように、感染させないようにと注意しています。それは、病気の恐ろしさを知っているからです。

しかし、本当に恐ろしい病気は、「罪」であると聖書は教えています。ところが、この病に対して人はまったく無防備の状態です。なぜなら、この病の恐ろしさを知らないからです。

病気が人を苦しめるように、罪は人を苦しめます。罪の苦しみは、神の罰ではなく、病気だからです。神は病気に罰を与えるようなことはなさいません。しかし、病気になるとつらいので、聖書は「罪と戦うように」と教えています。

「イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」（ヨハネ 8:10-11）

この女性は、姦淫の罪を犯している現場で捕まりました。石打ちで死刑にされる運命の人に、イエス様は「あなたを罪に定めない」と言い、「これからは罪を犯してはならない」と言われたのです。このことから、神は罪をさばくのではなく赦す方であることがわかります。しかし、その罪を放置するのではなく、「これからは罪を犯さないように」と注意を与えておられます。それは、罪は私たちに苦しめるからです。

たとえば、法律で禁止されている覚醒剤という薬物があります。一時的な興奮や高揚感が魅力の薬物ですが、やがて正常な思考力が失われ、身体が自由が利かなくなり、死に至ります。依存性が強いので、一度使用してしまうと再使用のリスクが非常に高く、気軽な気持ちで手を出した結果、一生苦しむことになる恐ろしい薬物です。そのことを知っているのに、人は覚醒剤に近寄らないように注意するわけです。

同様に、罪は私たちに苦しみをもたらすため、神は私たちに「罪を犯さないように」と注意を与えておられます。罪というと道徳的なものを連想する人が多いと思いますが、それは表面的なもので、その下に「人を愛せない」「自分を愛せない」という土台があります。

聖書は、「罪」とは神の命令に反することだと教えています。そして、神の命令は、「すべてを愛しなさい」という一言に集約されます。つまり、愛せないことが聖書の教える「罪」です。ですから、人や自分を愛せない、赦せない、受け入れられない、さばく、比べるという思いを持っているだけで、人は苦しみを感じ、そこからの解放を求めて快樂や罪に向かい、それがさらに苦しみを生み出す結果になっているのです。

さらに、この「愛せない」という気持ちを放置しておく、憎しみに変わります。憎しみが高じると、人の言葉が耳に入らなくなり、最悪の場合、相手を殺すか、自分が死ぬかしか

ないという思いに至ります。

人は、人を愛するように造られているため、人を愛せないと苦しさを感ず。「人の心は、病苦を耐えることはできるが、心の苦しみには耐えられない」と聖書は語っています。(箴言 18:14) 私たちに甚大な被害をもたらしているのは結局、「愛せない」「赦せない」という思いであって、それが人と人との争いを生み、戦争にまで発展するのです。

自分自身を苦しめるさまざまな行いや「愛せない」という「罪」に対して、私たちは何ができるのでしょうか。今、世界は、人間を苦しめ死にまで追いやる新型ウィルスの原因を探り、対策を研究していますが、ありがたいことに罪の原因はわかっています。その原因を知り、正しい対処法と予防法を知りましょう。

■なぜ罪を犯してしまうのか

人間は、体の中に、神のいのちによって造られた霊（魂）を持っています。この神のいのちは、私たちの中で「神を信じなさい」「神を愛しなさい」という神の思いを発信し続けています。ところが、悪魔の惑わしによってアダムが罪を犯して以来、人の体は有限性になってしまいました。有限性というのは「滅びる」ということです。神は永遠性で、有限性の中には存在できません。ですから、有限性の体が集めてくる情報は、神の思いをことごとく否定します。

すると、私たちの中で異なる情報がけんかを始め、「不安」が生じます。この「不安」が生じるところが、「精神」です。「精神」は、「霊」と「体」に支えられ、何かを意識し、何かを判断する「自分自身」と言えます。この精神を支える片方は「神がいる」と言い、片方は「神などいない」と言うため、不安になるのです。

残念ながら、この世界では体が持ってくる情報のほうが圧倒的に多くて強いため、「神が信じられない」という思いが強くなりますが、神の思いは発信されて続けているので、不安がなくなることはありません。

多くの人は「罪」とは「悪い行い」のことだと誤解していますが、そもそも罪とは、神の言葉を信じようとしないことです。それが私たちに不安をもたらしているのです。

「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。また、義については、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。さばきについては、この世を支配する者がさばかれたからです。」

(ヨハネ 16:8-11)

私たちが神の言葉を信じられない原因は、死の世界になったことです。つまり、罪の原因は「死」です。そして、罪の最大の恐ろしさは、神のことばを信じてつながらなければ、その人は朽ち果ててしまうということです。人の体は必ず朽ちますが、その時、神とつながっていない霊は、神のもとに戻されます。そうすると、支えてくれる「霊」と「体」を失った

「精神」は存在できなくなり、肉体の死と同時に人は滅んでしまうのです。

私たちが生きるためには、霊に朽ちないからだを着る必要があります。それは、神の呼びかけに応答することです。神は、ご自分の呼びかけに応答する人に、無条件で霊のからだを着せてくださいます。これが「永遠のいのち」です。イエス・キリストを信じている人は、すでに永遠のいのちを持ち、新しいからだを着せられています。そして、一度、永遠のいのちを与えられたら、それが奪い取られることは絶対にありません。

「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」(ヨハネ 10:27-28)

イエス・キリストを信じる告白をすれば、その救いは、永遠に保証されます。あなたがどんなに罪深いことをしようが、何をしようが関係ありません。この地上で犯す罪は、霊のからだではなく、死の体によるものですから、体が朽ちる時におしまいになります。サナギが蝶に脱皮するように、私たちが死の体から霊のからだになるのです。

私たちが苦しめている「罪」とは、神の言葉が信じられないことに尽きます。そのために、不安が生じて、その不安から私たちは見える安心を求めてしまうのです。見える安心を得ようとして、「どちらが立派か」「どちらが才能があるか」と人と比較すると、落ち込んだり、怒りが生じたりして、人を愛せなくなります。また、見える安心の象徴であるお金を求めると、人を愛することは二の次になります。

そういうことを理解するなら、罪への対応はどうしたらよいのかということが分かります。聖書は、どうすれば罪を予防できるか、罪に対してどうすればよいのかをちゃんと教えてくれています。

■罪を自覚せよ

罪への対応の第一は、まず罪を自覚することです。そのための検査キットが聖書です。聖書は「すべての人を罪の下に閉じ込めた」と教えていますが、それは、聖書を通してすべての人が、自分が罪人であること自覚できるようにしたということです。

聖書は、「もし、自分には罪がないと言うなら、あなたは嘘つきであるし、神様を偽りものにしている」と言っています。すべての人が死に支配され、不信仰に支配され、神の助けを必要としているのです。その私たちが助けるために来られた神に向かって、誰も「自分には罪がない」と追い返すことなどできません。

「それでは、どういうことになりますか。律法は罪なのではないでしょうか。絶対にそんなことはありません。ただ、律法によらないでは、私は罪を知ることがなかったでしょう。律法が、「むさぼってはならない」と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう。」(ローマ 7:7)

罪を自覚するための検査キットである神のことばの基準は、「汝の敵を愛せよ」です。敵を愛することができなければ罪人なのですから、すべての人が罪人です。さらにイエス・キリストは、心で何か悪いことを思うだけでも、罪だと言われました。このように、神は、私たちに自分が罪人であることを自覚させようとしておられます。それは、自分が病気だと思わなければ、誰も医者にかかろうとしないからです。

自分の罪がわかると、次に、その罪は自分ではどうにもならないことに気がつきます。その思いをパウロは次のように告白しています。

「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」（ローマ 7:24）

パウロは、何が悪いことで何が良いことか分かっているのに、それを実行できない自分はなんてみじめな人間だろうかと絶望しました。罪の原因は死であり、人間にはそれをどうすることもできないのです。イエス様が用意した検査キットで自分の罪を自覚したら、誰もが絶望するしかありません。

しかし、これが祝福の始まりです。神はあなたを絶望させたいのです。なぜなら、罪という病気は、神にしか治すことが出来ないからです。自分の力に頼っているうちは、決していやされません。罪の原因である死を扱えるのは、イエス・キリストしかおられないのです。ですから、神は、私たちがへりくだって「神様！助けてください！」というのを待っておられます。いやされるためには、絶望を通る必要があるのです。

「私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」
(ローマ 7:25-8:1)

罪に対応するカギは、神に助けを乞うことです。絶望する人は幸いです。絶望を恐れて自分の罪と向き合うことを避け、問題を自分の力でなんとかしようとしても、決して解決しません。

神は医者ですから、罪に気づいたら神に頼れば良いのです。イエス様は「私は医者であり、あなたは病人だ。」と言い、「あなたの重荷を私の所に持ってきなさい。」と一貫して語っておられます。

■神を信じよ(罪の予防)

「それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」」（ヨハネ 20:27）

罪の治療の第一歩は、罪を自覚することですが、罪を予防するには、「信じる者になること」が重要です。罪とは、神のことばが信じられないことです。ですから、積極的に神の約束を信じるのが罪の予防になるのです。

5 つのパンと 2 匹の魚をささげた少年の話を通して、信じるとは、どのようなことか学んでいきましょう。

「イエスは目を上げて、大ぜいの人々の群れがご自分のほうに来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか。」もっとも、イエスは、ピリポをためしてこう言われたのであった。イエスは、ご自分では、しようとしていることを知っておられたからである。ピリポはイエスに答えた。「めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」弟子のひとりシモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。ここに少年が大麦のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょう。」イエスは言われた。「人々をすわらせなさい。」その場所には草が多かった。そこで男たちはすわった。その数はおよそ五千人であった。そこで、イエスはパンを取り、感謝をささげてから、すわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、彼らにほしだけ分けられた。そして、彼らが十分食べたとき、弟子たちに言われた。「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい。」彼らは集めてみた。すると、大麦のパン五つから出て来たパン切れを、人々が食べたうえ、なお人々は、イエスのなさったしるしを見て、「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。」(ヨハネ 6:5-14)

イエス様はピリポに、今すぐ 5000 人の食事を用意するにはどうすれば良いかという難問を投げかけられました。神は、私たちがぶつかるさまざまな問題を解決することができるのですが、あえてすぐに解決せず、私たちに試されることがあります。

この時ピリポは、簡単に言うと「無理です」と答えました。すると、その会話が聞こえていたのでしょうか、一人の子どもが「ここに食べものがあります」と自分のお弁当を差し出してきたのです。差し出されたアンデレは、「こんなものではどうにもならない」と思いつつも、せっかくの子どもの申し出ですから、一応イエス様に報告しました。しかし、ここから奇跡が起こるのです。

この出来事は、困難の中にあっても、イエス様なら何とかしてくださると信じることの大切さを教えています。弟子達は常識に立ってしまったため、信じることができませんでした。信じる者になるとは「問題にぶつかった時、自分の力で何かをするのではなく、あきらめるのでもなく、神のことばを信じて前に進む」ということです。これが罪の予防になるのです。

■神を恐れよ(罪の予防 2)

「そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。」

(ルカ 12:4-5)

「神を恐れなさい」とは、どういうことでしょうか。「恐れる」とは心の向きを表します。今、私たちは目に見えないウイルスに恐れを抱き、その病気に心が向いています。つまり、「神を恐れる」とは、「神に心が向く」ということなのです。

神は、私たちを苦しめる罪を憎む方ですから、神を恐れることによって、私たちは罪から離れることになります。つまり、「神を恐れなさい」とは、「罪を恐れなさい」ということなのです。私たちを苦しめる罪を恐れ、唯一それを解決することのできる神に目を向けること——それらをすべて含めて、「神を恐れなさい」と聖書は教えています。

皆さんは今、一体何を恐れているのでしょうか。間違っても人間を恐れてはいけないと、聖書は教えています。人の目を恐れると人に気に入られようとして生きるようになり、自分を捨てるようになります。そうではなく、神に目を向けて、神の前に生きていく——そういう生き方ができるようになるとき、私たちは真の平安を手にすることができるようになるのです。これが罪の予防になります。

人は病を恐れますが、私たちを最も苦しめる病気は「罪」です。その病に正しく対応して、罪を自覚し神に助けを乞い、神を信じ、神を恐れて、罪を予防することに取り組むことができれば幸いです。